

令和4年度 事業計画

社会福祉法人しらゆり会

設立認可 : 平成17年2月25日
所在地 : 豊中市中桜塚2丁目9番24号
代表者 : 理事長 武内慎吾

法人概要

【法人の沿革】

平成 17 年 2 月	「社会福祉法人しらゆり会」創設	理事長	吉田純彦
平成 17 年 4 月	「さくらづか保育園」開園（定員 70 名）	園長	豊島朱美
平成 19 年 4 月	「のぼたけ保育園」開園（定員 140 名）	園長	吉田純彦
	「さくらづか保育園」施設長変更	園長	土井文子
平成 23 年 4 月	「さくらづか保育園」定員 90 名に変更		
	「のぼたけ保育園」定員 160 名に変更		
平成 25 年 4 月	「さくらづか保育園」施設長変更	園長	村上美香
平成 27 年 9 月	「のぼたけマミー保育園」開園（定員 20 名）	園長	奥瀬佳代子
平成 29 年 6 月	「社会福祉法人しらゆり会」代表者変更	理事長	浅尾利機
平成 30 年 4 月	「さくらづか保育園」定員 120 名に変更		
平成 30 年 7 月	「社会福祉法人しらゆり会」代表者変更	理事長	武内慎吾
令和 3 年 4 月	「さくらづか保育園」「のぼたけ保育園」を幼保連携型認定こども園へ認可変更		

【保育の方針】

保育理念：「こどもはみんな宝物」

「こども達の最善の利益の尊重」

「こども達の育ちを支え、保護者の子育てを支える」

保育目標：「心身ともに健やかで、仲間を大切にする生き生きとしたこどもの育成」

- しなやかな身体と心を育む
- 仲間の中で自己主張でき、自分のことだけでなく相手のことも考え、認め合い、豊かな関わりを持つこどもを育てる
- 自分は大切な存在であると、自信をもって行動するこどもを育てる
- 自分で考え行動し、達成感・満足感を持てるこどもを育てる

職員心得

- 私たちはこども第一で仕事をします
- 保育士・保育教諭は、こどもの模範である事を常に自覚し、常識と良識に基づいて行動します
- 職務上知りえた個人情報の秘密を守ります
- 保育士・保育教諭として、常にその専門性の向上に努めます
- 保護者との信頼関係の構築に努めます
- 常に自己の責任の下に行動し、報告・連絡・相談を怠りません
- 他の職員との間で、お互いに良好な関係を保つ努力をします

【施設の概要】

認定こども園 さくらづか保育園 園長：村上 美香
所在地：〒561-0881 豊中市中桜塚2丁目9番24号
連絡先：TEL/06-6843-5868 FAX/06-6858-8088
E-mail/sakura5868@sakuraduka.ed.jp

幼保連携型認定こども園 のばたけ保育園 園長：吉田 純彦
所在地：〒560-0053 豊中市向丘3丁目2番1号
連絡先：TEL/06-6848-4560 FAX/06-6848-4426
E-mail/nobatake1@road.ocn.ne.jp

のばたけマミー保育園 園長：奥瀬 佳代子
所在地：〒560-0002 豊中市緑丘4丁目35番19号
連絡先：TEL/06-6853-3533 FAX/06-6151-5455
E-mail/nobatake.mami@clock.ocn.ne.jp



法人計画

さくらづか保育園およびのばたけ保育園は幼保連携型認定こども園へ認可変更させて2年目となる。1号認定子どもの確保が課題となっていたが、両園とも初年度の4月1日から確保することができ、令和4年度も問題なく確保できそうである。1号認定子どもの過ごし方や設定に関しても、両施設の課題等を共有し連携を図りながら運営していくことができている。

大きな工事としては、さくらづか保育園のガス空調設備の全体修繕工事を行う予定である。平成23年の大規模修繕後よりホールや保育室のクーラーの効きが弱く小手先の対応でここまで来たが、一昨年前より午睡もできない位の状態になってきたので施設整備積立金を使用して全体工事を行う。

理事会・評議員会に関しては、本年度も新型コロナウイルス感染の情勢によるが、開催できない可能性もある。理事・評議員への情報提供・連絡・相談を重ねながら、適切な運営を行っていく。

地域貢献に関しても、新型コロナウイルスの情勢次第となるが、収束した後は園庭開放や地域住民との交流会および自治会行事等を通して、地域と施設の密着した関係性を築いていくほか、「大阪しあわせネットワーク事業」を活用して地域の生活困窮者の情報を拾い出し、相談支援・経済的援助を行っていく。

各施設計画

【認定こども園 さくらづか保育園】

利用定員：

区分	3号認定			上段：2号認定 下段：1号認定			合計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
定員	9名	20名	22名	23名 1名	23名 1名	23名 1名	120名 3名
弾力化実員 (4/1 予定)	15名	24名	24名	26名 1名	26名 0名	27名 1名	141名 2名

職員数：

種別	園長	主幹 保育教諭	保育 教諭	助保育 教諭	看護師	栄養士	調理員	用務員	事務員
常勤	1名	2名	22名	—	—	1名	2名	—	—
非常勤	—	—	11名	5名	1名	—	2名	2名	1名
合計	1名	2名	33名	5名	1名	1名	4名	2名	1名

学校医：

種別	内科医	歯科医	眼科医	耳鼻咽喉科医	薬剤師	合計
嘱託	1名	1名	1名	1名	1名	5名

第三者委員：岡本清治、松 公造

本年度重点的に取り組む目標・計画

- 子どもの遊びが発展する環境、生活面では、心と体が休まる安心・安全な環境づくりに努める。
- フリー職員や午睡時の職員を増員し、勤務内での事務処理・保育業務を行えるようにしていく。また、クラスリーダーの育成に努め、クラス運営がスムーズに行えるようにする。
- 研修した内容を施設内で共有し、学びを深める園内研修を充実させ、保育の質の向上に努める。
- 災害訓練マニュアルを職員に周知させる。また、救命救急の研修を受け子どもの安全を確保できるように努める。

目標・計画の具体的な項目と取り組み方法

項目	取組方法
保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 当園の理念・保育目標の理解を深め、職員が同じ方向で保育が行えるようにする。 ● 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、他クラス交流を図り、異年齢児の関わりや保育教諭との関わりを大切にする。また、交流を通して子ども理解を深める。 ● 子ども一人ひとりの人権を大切にされた保育の実践し、保育教諭や親との愛着関係の構築に努める。 ● 新型コロナウイルスの感染状況によるが、ふりかけづくりや野菜カット・皮むきを再開し、食に対して興味や関心を持てるよう計画を立て実施していく。 ● 災害訓練マニュアルを職員間で学び確認する機会を設け、緊急時にスムーズに対応ができ子どもの安全を守れるように努める。
職員処遇	<ul style="list-style-type: none"> ● 主任・副主任から各クラスリーダーの育成に努め、職員同士の思いや考えを伝え合うことのできる話しやすい関係づくりに努める。 ● 研修報告会を実施し、子ども理解を深め意識の共有化を図る。 ● 引き続き、有給消化の促進に努める。
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● スマイルサポーターが常駐しているので、地域の方の相談窓口として努めていく。 ● 人数を制限しての園見学の再開。 ● コロナ禍が収束傾向であれば、0歳・1歳児親子【さくらっこサークル】を再開。園庭解放は引き続き開催する。 ● 赤ちゃんの駅（園庭解放・オムツ交換、授乳室の提供） ● 保育実習生・ボランティアの積極的な受け入れ。 ● 年長児が高齢者の会の【まほろば会】【敬老の日】に参加し世代間交流を行う。 ● 北桜塚自治会の行事に参加を増やし、地域との交流を深める。

その他特記事項

- ガス空調設備の全体修繕工事
- 園庭の全体遮光工事

【幼保連携型認定こども園 のばたけ保育園】

利用定員：

区分	3号認定			上段：2号認定 下段：1号認定			合計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
定員	15名	25名	30名	30名 3名	30名 3名	30名 3名	160名 9名
弾力化実員 (4/1 予定)	15名	25名	36名	30名 5名	30名 2名	48名 4名	184名 11名

職員数：

種別	園長	副園長	主幹保育教諭	保育教諭	看護師	調理員	用務・警備員	事務員
常勤	1名	1名	2名	28名	1名	3名	—	—
非常勤	—	—	—	9名	—	2名	3名	2名
合計	1名	1名	2名	37名	1名	5名	3名	2名

学校医：

種別	内科医	歯科医	眼科医	耳鼻咽喉科医	薬剤師	合計
嘱託	1名	1名	1名	1名	1名	5名

第三者委員：安芸雅美、平川郁子

本年度重点的に取り組む目標・計画

- 子どもが充分遊びきれ環境を作り、援助していくことで自主性や積極性を育て心の成長を促す
- 認定こども園となったことを踏まえ、生活の場だけではなく、幼児クラスは教育的要素も含めた保育内容を進めていく。
- 働きやすい職場づくりに努め、職員間の話し合いや協力により、保育の考え方や取り組みをしっかりと理解し、同じ方向性を持って保育にあたることのできるチームワーク作りをする。
- 多様な子ども達の育ちに配慮し、一人ひとりに応じたきめ細かい子育て支援が出来るように地域の専門機関との連携を図る。

目標・計画の具体的な項目と取り組み方法

項目	取組方法
保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが安全に安心して過ごせ、また、一人ひとりの発達や興味にあったあそびが豊かに展開できるよう 教育・保育環境を整え、子どもが自主的にあそぶ姿を見守り、発達に必要な経験が得られるようにする。 ● 運動を通して様々な精神力・知・身体力を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせ関連づけながら保育計画を立て実践していく。 ● 保護者のニーズに応え、課外活動の場を提供するなど園の特色を前面にだせるよう園全体で取り組んでいく。 ● さくらさくらんぼやリトミックを通して体幹を鍛え安定した体力づくりに努める。 ● 食に関する意欲や関心を持てるように、園の畑やプランターを用いて各クラスが年間を通して食育活動を計画的に進めていけるようにする。 ● このコロナ禍におけるリスクマネジメントとして、過去の動向や傾向を考え、行事の時期が適切かどうか再検討し見直しを図る。
職員処遇	<ul style="list-style-type: none"> ● 行事の見直しを図ったり、本年度より写真販売を御者に委託するなど職員の仕事の負担を軽減し、よりいっそう保育の仕事に集中できるようにする。 ● 全員参加型の園内研修を実施し、職員ひとりひとりの保育観の共有や意識統一を図り、保育の質の向上へと繋げる。 ● 職員間で保育の情報の共有ができるよう、乳幼児職員間の話し合いの場を定期的に設け、チーム保育をめざす。
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 一時保育や園庭開放などを通じて遊び場を提供し、地域の子育て相談にのるなど地域に開かれた施設として地域住民に貢献できるようにする。 ● 実習生を積極的に受け入れ、適切な指導や助言を行っていく。 ● 園の特色を分かりやすくホームページを使って発信するなど IT を積極的に活用し、地域や保護者に伝えていく努力をする。

その他特記事項

【のぼたけマミー保育園】

利用定員：

区分	3号認定			2号認定			合計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
定員	6名	7名	7名	—	—	—	20名
弾力化実員 (4/1 予定)	6名	8名	8名	—	—	—	22名

職員数：

種別	園長	主任保育士	保育士	看護師	調理員	用務員
常勤	1名	1名	9名	1名	2名	—
非常勤	—	—	3名	—	—	1名
合計	1名	1名	12名	1名	2名	1名

嘱託医：

種別	内科医	歯科医	眼科医	耳鼻咽喉科医	薬剤師	合計
嘱託	1名	1名	—	—	—	2名

第三者委員：安芸雅美、平川郁子

本年度重点的に取り組む目標・計画

- 家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの子どもを大切に育てる。
- 興味や意欲をもって行動できる子どもを育てるために保育環境の充実を図る。
- 保育士の保育力を高め、保育の質の向上を目指す。
- インクルーシブな保育を目指す。

目標・計画の具体的な項目と取り組み方法

項目	取組方法
保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりの子どもの発信を見逃さず、応答的な保育を行う。 ● 子どもが安全に安心して過ごせ、また、一人ひとりの発達や興味にあった遊びが豊かに展開できるよう保育環境を整えるとともに、子どもが自主的に遊ぶ姿を見守り、支援したり、共に感動したりしながら考える力や意欲の育ちを応援する。 ● 野菜を育てたり食材に触れたりして食への興味を深め、食べる楽しみにつなげる。 ● 小動物や植物など自然とのふれあいを通して命の大切さを感じるとともに、豊かな感情を育てる。 ● 運動遊びを楽しみながら体幹を鍛え安定したからだの基礎をつくる。 ● 公衆衛生に配慮し、感染症予防に気を付けながらも、表情や感情が伝わるよう心掛け豊かな心情を育てる。
職員処遇	<ul style="list-style-type: none"> ● オンライン研修等では多人数が積極的に参加できるよう工夫し、共通理解の下、園全体の保育が円滑に行われるように努める。 ● 看護師指導の下体調管理を行い、体調不良時は遠慮なく休養がとれる環境を作る。 ● 勤務時間内に事務作業時間が確保でき、時間外・持ち帰り仕事をなくす。 ● 特技を生かした活動に取り組むことで組織内での存在意義を高め、自信につなげる。 ● 有給取得率を高める。
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ● 月1回「みんなであそぼ」で地域の0～2歳児と交流。・絵本貸出し ● スマイルサポーターによる育児相談を行う。 ● 赤ちゃんの駅（オムツ交換・授乳場所の提供） ● 異世代交流 地域の高齢者施設「アクティブライフ豊中」訪問及び招待。 ● 高校生のための保育の職業体験事業受け入れ (すべて新型コロナウイルス感染症の状況によって変化する。)

その他特記事項